

# 「指導事項」を意識して「言語活動の充実」を図る 高等学校国語科の授業構想

## —高等学校版単元構想表の作成とその活用—

専門研修課 指導主事 小島 慶久

【要旨】 学習指導要領に示された「指導事項」を意識して「言語活動の充実」を図る高等学校国語科の授業構想の方策について提案した。国立教育政策研究所富山哲也教育課程調査官が提案する「中学校国語科における『単元を貫く課題解決的な活動』を取り入れた授業の構想」及び「単元構想表」を援用し、高等学校国語科各科目に合わせた単元構想表の様式を作成するとともに、その様式を活用した「古典B」の授業構想例を提示した。

【キーワード】 高等学校，国語，指導事項，言語活動の充実，単元を貫く，単元構想表

### 1 はじめに

平成11年版の高等学校学習指導要領国語科では、実践的な指導の充実を図る観点から、各科目の「内容の取扱い」において、各科目及び領域ごとに言語活動例が示された。その後改訂された平成21年版の高等学校学習指導要領国語科では、各科目及び領域の「内容」の（1）に指導事項を示すとともに、これまでは「内容の取扱い」に示していた言語活動例を「内容」の（2）に位置付けて再構成することで、言語活動を通して指導事項を指導することが一層明確になった。

一方、鳴島・高木（2010）（※1）は、現在の高等学校国語科において、多様な言語活動を通して指導するという意識の乏しい授業が見られることを指摘している。高等学校国語科では、教師が教材文の内容について説明してしまい、生徒は教師の説明を聞いて知識として取り入れたり、黒板に書かれた内容を機械的に書き写したりすることに陥りがちになる。これでは、生徒の能動的な学習活動が行われず、思考力・判断力・表現力の育成は図れない。

以上を踏まえ、本稿では、「指導事項」を意識して「言語活動の充実」を図る高等学校国語科の授業構想の方策について述べる。

### 2 学習指導要領からつくる中学校国語科授業の構想

#### （1）単元を貫く課題解決的な活動を取り入れた授業の構想

「指導事項」を意識して「言語活動の充実」を図る高等学校国語科の授業構想について考えるにあたり、国立教育政策研究所富山哲也教育課程調査官が提案した「単元を貫く課題解決的な活動を取り入れた授業の構想」に着目した。

富山（2011）（※2）は、単元を貫く課題解決的な活動では「相手や目的、意図を明確にして指導事項を指導するための言語活動を位置付けている」（注1）こと、また、ここで言う言語活動とは「思考して判断して表現するという過程を含み、生徒の学習意欲を喚起する、単元を貫く課題解決的な学習活動」であり、「指導事項を効果的に指導できるもの」でなくてはならないことを述べている。

#### （2）中学校国語科における単元構想表

単元を貫く課題解決的な活動を取り入れた授業を構想する際に活用するのが、単元構想表（表1）（※3）（注2）である。この単元構想表は、1つの学年について領域（「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」）ごとに様式を作成しており、当該学年の当該領域の1単元の計画を構想する際には、その学年・領域の様式を使用する。つまり、中学校の3つの学年で、計9種類の単元構想表の様式が作成されている。

表1 単元構想表例 中学校第3学年「話すこと・聞くこと」【岡山(2011) (※3)】

言語活動例		ア 時間や場の条件に合わせてスピーチをしたり、それを聞いて自分の表現の参考にしたりすること。			
指導事項	重点化	学習活動	評価規準	留意点 他	時
ア	○	特定の消費者層に対して新型ゲーム機をPRする方法を仕様書に基づいて考え、プレゼンテーションのために効果的なキャッチコピーと簡単なスライドを作成する。	聞き手に訴える事柄を明確にし、資料を用いて効果的に表現している。②	教師が作成したゲーム機の画像を挿入したスライドを教材として配付する。	1・2・3・4
イ		選択した消費者層に対して訴求力のあるセールスポイントを強調するために、声の大きさや間の取り方、資料を提示するタイミング等を考え、プレゼンテーションを行う。		他パソコンは使用せず、フリップやポスターを使ってプレゼンテーションを行うことも考えられる。	
ウ	◎	プレゼンテーションを聞きながら、ターゲットとして想定されている消費者層を推定し、セールスポイントの選び方と強調の仕方、資料を活用した表現の仕方、聞き手にアピールする話し方の工夫などについて評価する。	話し手の意図をとらえ、セールスポイントの選択や表現の工夫について評価している。③	指「想定されている消費者層の明確さ」、「選択したセールスポイントの適切さ」、「購買意欲を喚起する表現の工夫」の3つの観点から評価するよう指示する。	5
エ		テレビショッピングなどの映像を視聴し、PRの工夫について意見を述べ合う。			6
		時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いを理解するとともに、敬語を社会生活の中で適切に使うこと。	場の設定と聞き手の設定を意識し、適切な敬語を使って話している。④		
		(1)イ(7) 関連する 「伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項」		評 観察とワークシートの記述内容で評価する。	
国語への関心・意欲・態度に関する評価			プレゼンテーションに関心をもち、聞き手の意志決定に働きかける話し手の工夫をとらえようとしている。①		

\* 「留意点 他」の記号…指指導に当たっての留意点、評評価に対しての留意点、他他の学習活動のアイデア、教教材・教員の工夫

富山(2011)(※4)は、単元構想表の活用  
の手順として図1の6点を挙げている。また、この6点の順序はあくまで便宜的なものであり、実際に単元を構想するには相互に関連し合って全体像が明らかになっていく場合が多いと述べている。

- |  |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1 指導する領域を定め、当該学年の指導事項を確認する(特に、その学年で重点化されている指導内容を押さえる)。</li><li>2 言語活動例を参考にして、指導事項を指導する上で有効な言語活動を設定する。</li><li>3 言語活動に基づいて、各指導事項に対応した学習活動を具体化する。</li><li>4 関連する〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕を位置づける。</li><li>5 単元において特に重点的に指導し評価する内容を決め、評価規準を設定する(「国語への関心・意欲・態度」の評価規準も設定する)。</li><li>6 学習活動の順序に沿って、指導の時数を決める。</li></ol> |
|--|

図1 単元構想表の活用手順

#### ア 単元構想表の記載事項

図1の手順に沿って、単元構想表の記載事項についてまとめる(表1参照)。

##### (ア) 指導事項

「指導事項」の欄には、学習指導要領に示されている当該学年・当該領域の指導事項と、その事項に付された記号が記載されている。指導する学年・領域が定まると、それに対応する単元構想表の様式も定まり、指導事項が確認できる。

##### (イ) 言語活動例

「言語活動例」の欄には、学習指導要領の当該学年・当該領域に記載されている言語活動例の中から、本単元で取り扱うものを、その例に付された記号とともに記入する。学習指導要領に記載されている言語活動例以外の言語活動を取り入れることもできる。

##### (ウ) 単元を貫く課題解決的な学習活動

言語活動例を参考にして、単元を貫く課題解決的な学習活動の内容を、「重点化」の欄の左側に記入する。表1の単元構想表では「ゲーム機をPRするプレゼンテーションを行う。」と記入している。

#### (エ) 指導の重点化

単元において特に重点的に指導し評価する内容が定めれば、その指導事項の「重点化」の欄に印を記入する。単元の中で重点化して評価する指導事項には◎印を、それに次ぐ指導事項には○印をつける。◎印と○印をつけた指導事項については、評価規準を書くことになる。

##### イ 単元構想表によって考えられた授業の長所

富山(2011)(※5)は、単元構想表によって考えられた授業の長所として、次の3点を挙げている。

##### ① 付きたい力が明確である

学習指導要領の指導事項に基づいて学習活動が設定され、また、特に重点とする指導内容の明確化とその評価規準の具体化が図られている。

##### ② 単元を貫く言語活動が位置付いている

複数の指導事項にまたがるひとまとまりの言語活動を設定することにより、生徒は課題解決をしながら、思考・判断・表現する力を身に付けていくことになる。

##### ③ 領域と〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の関連が明らかになる

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(以下、〔伝国〕)は、3領域の指導と関連して繰り返し指導されることが大切であり、単元構想表を用いることで、その位置づけが一層明確になる。

### 3 高等学校国語科授業の構想

富山(2011)(※2)にて述べられた「学習指導要領から国語科の授業をつくること」、また、言語活動が「思考して判断して表現するという過程を含み、生徒の学習意欲を喚起する、単元を貫く課題解決的な学習活動」であり、「指導事項を効果的に指導できるもの」でなくてはならないということは、高等学校学習指導要領の内容にも沿ったものである。従って、高等学校国語科においても、この授業構想及び単元構想表の活用は可能であると考える。

但し、中学校国語科と高等学校国語科で相違する事項があるので、高等学校にあわせた単元構想表の様式等を作成する必要がある。

(1) 中学校国語科と高等学校国語科の相違  
ア 内容の構成, 指導事項及び学習の過程  
(注3)

(ア) 必履修科目「国語総合」

「A話すこと・聞くこと」, 「B書くこと」, 「C読むこと」及び〔伝国〕の3領域1事項(以下, 領域等)で内容を構成しており, 領域等ごとに指導事項が設定されている。これは中学校国語科と同様である。

各領域における学習の過程の各項目については, 『高等学校学習指導要領解説 国語編』(2010)付録5「小学校, 中学校, 『国語総合』の目標及び内容の系統表」(※6)に示されている。中学校国語科と高等学校国語科で名称が一部異なっているため, 注意を要する(表2)。

表2 「国語総合」各領域における学習の過程の各項目

	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
ア	話題設定 ・取材 ・構成	題材設定 ・取材 ・表現の工夫	表現に即した理解
イ	話すこと・聞くこと	構成	文章の解釈
ウ	話し合うこと	記述	
エ	交流・評価	推敲 ・交流・評価	考えの形成 ・読書 ・情報活用
オ			

(※ア～オは, 学習指導要領の指導事項に付された記号を表している。例えば, 「話すこと・聞くこと」の指導事項アは, 「話す・聞く」過程の中の「話題設定・取材・構成」の項目と対応していることを表している。

(イ) 選択科目

選択科目は, 「国語表現」, 「現代文A」, 「現代文B」, 「古典A」及び「古典B」の5科目である。

この5科目と中学校国語科とで異なるのは, 次の2点である。

1点目は, 各科目によって指導する領域・事項が異なることである。選択科目は, 「国語総合」の領域等の中から関連する領域・事項を中心に発展させた科目であるため, 3領域のすべてを指導するとは限らない。

2点目は, 〔伝国〕に関する指導内容が, 3

領域に関する指導内容と同じ「指導事項」の項目に含まれていることである。これにより, 例えば, 言語文化に対する理解を深めることを主なねらいとしている「現代文A」及び「古典A」では, 3領域に関する指導事項は含めず, 〔伝国〕に関する指導事項のみを指導する単元を計画することができる。

イ 評価の観点

『評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料【高等学校国語】』(2012)

(※7)には, 国語科における評価の観点は, 「関心・意欲・態度」, 「話す・聞く能力」, 「書く能力」, 「読む能力」及び「知識・理解」の5観点であるとしている。この中の「関心・意欲・態度」と「知識・理解」の名称が, 中学校国語科の評価の観点の名称と一部異なるため, 注意が必要である。

また, 1つの単元で

- |  |
|--|
| ① 「関心・意欲・態度」<br>② 「話す・聞く能力」, 「書く能力」,<br>「読む能力」のいずれか<br>③ 「知識・理解」 |
|--|

のように3観点で評価することについては, 中学校と高等学校と同様である。なお, 先述した〔伝国〕に関する指導事項のみを指導する単元の場合, 「関心・意欲・態度」と「知識・理解」の2観点で評価することが可能である(注4)。

(2) 高等学校国語科各科目における「指導事項の系統」及び「評価の観点」

『高等学校学習指導要領解説 国語編』(2010)付録6「指導事項・言語活動例」(※8)及び『評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料【高等学校国語】』

(2012)掲載の表「選択科目の『評価の観点』と『指導事項』との対応」(※9)を基にして, 国語科各科目における「指導事項の系統」及び「評価の観点」を一覧にまとめた(表3)。

表3は, 次に述べる高等学校国語科の単元構想表の様式作成の基礎データとなる。

(3) 高等学校国語科の単元構想表

ア 中学校国語科単元構想表との違い

中学校国語科の単元構想表の様式から一部変更して, 高等学校国語科の単元構想表の様式を作成した。変更内容は, 次の4点である。

表3 高等学校国語科各科目における「指導事項の系統」及び「評価の観点」

評価の観点 (能力等)	領域・事項	学習の過程 (「知識・理解」 の欄を除く。)	各能力等に対応する学習指導要領の指導事項(内容の(1))					
			国語総合	国語表現	現代文A	現代文B	古典A	古典B
話す・聞く能力	話すこと 聞くこと	話題設定・取材・構成	ア	ア	／	エ	／	／
		話すこと・聞くこと	イ	エ	／		／	／
		話し合うこと	ウ	イ	／	—	／	／
		交流・評価	エ	エ, オ	／	オ(後段)	／	／
書く能力	書くこと	題材設定・取材・表現の工夫	ア	ア, エ	／	エ	／	／
		構成	イ	ウ	／		／	／
		記述	イ, ウ	／	／	／	／	
		推敲・交流・評価	エ	オ	／	オ(後段)	／	／
読む能力	読むこと	表現に即した理解	ア	／	—	—	—	エ
		文章の解釈	イ, ウ	／	イ(前段)	ア, イ	イ(前段)	イ, エ
		考えの形成・読書・情報活用	エ, オ	／	ア	ア, イ, ウ	ア	イ, ウ, エ
		言語文化	—	／	エ(前段)	—	エ(前段)	—
知識・理解	伝統的な言語文化と国語の特質に関すること	伝統的な言語文化	※ 内容の(1) の指導事項 に含まない。	カ	ウ, エ(後段)	—	ウ, エ(後段)	エ(前段), オ
		言葉の特徴やきまり	—	イ(後段)	オ (前段及び 後段の前半)	イ(後段)	ア	

- ・ 「関心・意欲・態度」は全ての指導事項が対応する。
- ・ \は、その科目において評価の観点として含まないことを示している。
- ・ 評価の観点は存在するが、学習の過程や〔伝国〕の内容が存在しない場合は、「—」で示している。
- ・ 「知識・理解」の「学習の過程」欄に記載している「伝統的な言語文化」及び「言葉の特徴やきまり」は、指導する項目である。

1点目は、すべての科目において、学習の過程を明確にしたことである。各科目において、3領域に関する指導事項については、表3に示した学習の過程の順序に沿って指導事項を並べた(表4「単元構想表の様式 国語総合『読むこと』」参照)。

2点目は、1点目と関連して、中学校国語科の単元構想表では、「指導事項」の欄に併記していた学習過程を、高等学校の単元構想表では、「指導事項」の欄の左側に学習の過程を記入する欄として特設したことである。

3点目は、選択科目における「知識・理解」の観点に関する記載方法である。先述のとおり、選択科目では、〔伝国〕に関する指導内容が3領域に関する指導内容と同じ「指導事

項」の項目に含まれている。そのため、単元構想表でも、「知識・理解」に関する指導事項は、3領域に関する指導事項と併記することになる。そこで、両者の指導事項の境目を二重線で区切り、見分けが容易になるようにした(表7「単元構想例 古典B『読むこと』」参照)。

4点目は、3点目と関連して、選択科目において、「知識・理解」の観点に重点化の◎印が付くことである。3観点の評価である

- ① 「関心・意欲・態度」
- ② 「話す・聞く能力」, 「書く能力」, 「読む能力」のいずれか
- ③ 「知識・理解」

に沿って評価する場合、中学校国語科及び「国

表4 単元構想表の様式 国語総合「読むこと」

単元構想表 国語総合「読むこと」 単元名

言語活動例		ア・イ・ウ・エ・他				
		重点化	学習活動	評価規準	留意点 他	時
表現に 即した理解	指導事項 ア 文章の内容や形態に応じた 表現の特色に注意して読む こと。					
	イ 文章の内容を叙述に即して 的確に読み取ったり、必要 に応じて要約や詳述をした りすること。					
文章の解釈	ウ 文章に描かれた人物、情 景、心情などを表現に即し て読み味わうこと。					
	エ 文章の構成や展開を確か め、内容や表現の仕方につ いて評価したり、書き手の 意図をとらえたりするこ と。					
考えの形成 ・読書 ・情報活用	オ 幅広く本や文章を読み、情 報を得て用いたり、ものの 見方、感じ方、考え方を豊 かにしたりすること。					
	関連する〔伝統的な言語文化 と国語の特質に関する事項〕					
<p style="text-align: center;">関心・意欲・態度 に関する評価</p>						

※「留意点 他」の記号…（指）指導に当たつての留意点、（評）評価に対しての留意点、（他）他の学習活動のアイデア、（教）教材・教具の工夫

語総合」の単元構想表では、①の「関心・意欲・態度」及び③の「知識・理解」の評価は指導事項の欄とは別に記入することとし、②の「能力」の評価については、重点化する項目に◎印を1つのみ付ければよい形式であった（表1参照）。しかし、選択科目の単元構想表では、〔伝国〕に関する指導内容が「指導事項」の項目に含まれたことにより、③の「知識・理解」の評価でも②の「能力」の評価と同様、「重点化」の欄に◎印が入れられるようになった。すると、1枚の単元構想表に◎印が2つ付くことになる。そこで、両者を区別するために、「知識・理解」に関する指導事項を重点化する場合、「重点化」の欄に「知・理」と記入するようにした（表7参照）。これにより、◎印が3領域についての重点指導項目であることが明確になり、中学校国語科の単元構想表との整合性が図れる。

#### イ 高等学校国語科の単元構想表の分類

表3で示している「各科目における評価の観点」から、高等学校国語科に必要な単元構想表の様式は、表5のとおりで、合計11種類となる。なお、「関心・意欲・態度」と「知識・理解」の2観点で評価する単元専用の単元構想表は作成していない。この場合は、その科目のいずれかの領域の単元構想表を代用することで対応できるため、授業者が必要に応じて単元構想表を選択することとする。

表5 選択科目に必要な単元構想表

領域 \ 科目	国語総合	国語表現	現代文A	現代文B	古典A	古典B
話すこと・聞くこと	○	○	△	○	△	△
書くこと	○	○	△	○	△	△
読むこと	○	△	○	○	○	○

・ ○印は、単元構想表の様式が必要であることを示す。

高等学校国語科の単元構想表は、大きく4つに分類することができる。

#### (ア) 標準型

表3から、「国語総合」の「話すこと・聞くこと」の領域では、「話題設定・取材・構成」、「話すこと・聞くこと」、「話し

合うこと」、「交流・評価」という、「話す・聞く」過程に沿って指導事項がアから順に並んでいる。このように、学習の過程の順に指導事項も並んでいる型式を、本稿では「標準型」と分類する。

「国語総合」の「読むこと」の領域のように、学習の過程の1項目に2つの指導事項が対応している場合も、学習の過程の順に指導事項が並んでいるといえるので、「標準型」とする。

「現代文B」の「話すこと・読むこと」及び「書くこと」についても、指導事項エとオの順序が学習の過程の順序に沿う型式であるといえ、「標準型」である。なお、指導事項オが「読むこと」及び「知識・理解」の2つの評価の観点にまたがって記載されているが、これは学習の過程の順序に逆らっているものではない。

#### (イ) 入替え型

表3から、「国語表現」の「書くこと」、「現代文A」の「読むこと」（表6）及び「古典A」の「読むこと」では、学習の過程の順序に沿うように指導事項を配置すると、指導事項の順序を入れ替える必要が出てくることが分かる。（「国語表現」の指導事項エ、「現代文A」の指導事項エ及び「古典A」の指導事項エが該当する。）このような型式を「入替え型」と分類する。

なお、表6のように、「国語総合」の〔伝国〕の事項順に従って「伝統的な言語文化」及び「言葉の特徴やきまり」を記載しているために、指導事項イが指導事項ウとエより後になることがある。しかし、〔伝国〕については指導の順序が定められていないため、これは「入替え型」の特徴であるとはいえない。

#### (ウ) 重複型、混合型

上記（ア）及び（イ）以外の科目・領域では、1つの指導事項が学習の過程の複数項目で重複している。

そのうち、「国語総合」の「書くこと」の領域では、1つの指導事項が、学習の過程の複数項目で重複している（ここでは、指導事項イが、「構成」及び「記述」の2項目に対応している）ものの、学習の過程の順に指導事項が並んでいる「標準型」の要素を有している。このような型式を、本稿では「重複型」と分類する。

一方、「国語表現」の「話すこと・聞くこと」、「現代文B」の「読むこと」及び「古典B」の「読むこと」の各領域では、1つの指導事項が、学習の過程の複数項目で重複しており（「国語表現」の「話すこと・聞くこと」では指導事項エが、「現代文B」の「読むこと」では指導事項アとイが、「古典B」の「読むこと」では指導事項イとエがそれぞれ該当する）、学習の過程の順序に沿うように指導事項を配置すると、指導事項の順序を入れ替える必要が出てくる「入替え型」の要素を有している。このような型式を、本稿では「混合型」と分類する。

表6 単元構想表の様式の一部  
現代文A「読むこと」

言語活動例		ア・イ
指導事項		
文章の解釈	イ	文章特有の表現を味わったり、 語句の用いられ方について理解を深めたりすること。
考えの形成 ・読書 ・情報活用	ア	文章に表れたものの見方、感じ方、 考え方を読み取り、人間、社会、 自然などについて考察すること。
言語文化	エ	近代以降の言語文化についての課題を 設定し、様々な資料を読んで探究して、 言語文化について理解を深めること。
伝統的な 言語文化	ウ	文章を読んで、言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解すること。
	エ	近代以降の言語文化についての課題を設定し、 様々な資料を読んで探究して、言語文化について理解を深めること。
言葉の特徴 やきまり	イ	文章特有の表現を味わったり、 語句の用いられ方について理解を深めたりすること。
関心・意欲・態度 に関する評価		

※「重点化」から右の列（学習活動・評価規準・留意点等）については、表4と同じ構成になっているため、ここでは省略した。

なお、表6の「単元構想表の様式の一部」にある「現代文A」の指導事項「文章特有の表現を味わったり、語句の用いられ方について理解を深めたりすること。」は、前段「文章特有の表現を味わったり、」が「読む能力」に関する事、後段「語句の用いられ方について理解を深めたりすること。」が「知識・理解」に関する事で構成されている。このように、1つの指導事項が、学習の過程の各項目等で重複している場合、その指導事項の表記については、該当する学習の過程の各項目等のすべてに指導事項の一文を記載し、該当しない観点の部分の文字を小さく表示している。

ウ 高等学校国語科単元構想表の活用手順  
図1の中学校国語科の単元構想表の活用手順を基に、高等学校国語科の単元構想表の活用手順を作成する（図2）。

- 1 指導する領域・事項を定め、当該科目の指導事項を確認する（特に、その科目で重点化されている指導内容を押さえる）。
- 2 言語活動例を参考にして、指導事項を指導する上で有効な言語活動を設定する。
- 3 言語活動に基づいて、各指導事項に対応した学習活動を具体化する。
- 4 「国語総合」では、関連する〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕を位置づける。
- 5 単元において特に重点的に指導し評価する内容を決め、評価規準を設定する（「関心・意欲・態度」の評価規準も設定する）。
- 6 学習活動の順序に沿って、指導の時間を決める。

図2 高等学校国語科の単元構想表の活用手順

図2中の1「・事項」及び4の冒頭「国語総合では」が加わったのは、〔伝国〕の内容が指導事項に含まれたことによるものである。1の「科目」は、中学校国語科では「学年」となっていたものである。5の「関心・意欲・態度」は、評価の観点が中学校国語科と異なることによるものである。

#### 4 「古典B」の単元構想例

単元構想表を用いた単元構想例として、本稿では、平成21年版高等学校学習指導要領国語科の新科目「古典B」の「読むこと」の指導における単元構想を提示する。

単元構想表 古典B「読むこと」 単元名「どう考える、平安歌人の生き方」

言語活動例		指導事項	重点化	学習活動	評価規準	留意点 他	時
<p>平安歌人の生き方について、現代の視点で話し合う。</p>							
表現に即した理解	エ	古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察すること。					
	イ	古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえること。					
	エ	古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察すること。		文章中の語句や表現の仕方をもとにして、筆者の考えや思いを読み取る。			
文章の解釈	イ	古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえること。	○	藤原長能と壬生忠見についての話から、事の顛末及び長能・忠見の生き方に対する筆者の考えや思いを的確に読み取る。	文章の展開を正しく読み取り、内容を的確にとらえている。	(指)一文ごととに教師が現代語訳をしながらか進めるのではなく、長能や忠見の生き方に関する記述部分を取り上げる。 (教)現代語訳を活用して読み進める部分も設ける。〔指導事項ア参照。〕	1 ・ 2
	エ	古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察すること。					
	ウ	古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。	◎	長能と忠見の、平安歌人としての生き方について自分の意見を持つことにも、現代の自分や社会という視点からも含めて、この生き方はどうであるか話し合う。	文章から平安歌人の生き方について自分の意見を持つことや社会に対する思いや考え方を見直したり、広げたり、深めたり、広げたりしている。	(指)個人思考を行い、その後4人1グループで行う。 他のメンバーの意見をメモする。 各グループから出された意見を全体の場で交流する。 (評)ワークシートの記述内容で評価する。	3 ・ 4
伝統的な言語文化	オ	古典を読んで、我が国の文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深めること。					
言葉の特徴やきまり	ア	古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解すること。	知	和歌の修辞や語句の使い方に留意して、和歌を鑑賞する。	和歌の修辞や語句の使い方について理解している。	(指)文法事項を全文において羅列的に扱わず、和歌及び長能や忠見の生き方に関わる部分の語句に焦点を当てて読み進める。	1 ) 4
		関心・意欲・態度	理		平安歌人の生き方について自分の意見を持ち、人間や社会に対する思いや考え方を見直したり、深めたり、広げたりしている。	(評)観察とワークシートの記述内容で評価する。	

※「留意点 他」の記号… (指) 指導に当たっての留意点, (評) 評価に当たっての留意点, (他) 他の学習活動のアイデア, (教) 教材・教具の工夫

表7 単元構想例 古典B「読むこと」

### (1) 単元名

「どう考える、平安歌人の生き方」(注5)

### (2) 単元の目標

- 古典を読んで、人間の思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとする。〔関心・意欲・態度〕
- 筆者の登場人物に対する評価を踏まえて、平安歌人の生き方について考えを深めている。〔読むこと、指導事項ウ〕
- 和歌の修辞や語句の用い方について理解している。〔知識・理解、指導事項ア〕

### (3) 教材について

#### ●主教材

『沙石集』巻第五末ノ四  
「歌故(ゆゑ)に命を失ふ事」全文

『沙石集』は、仏の教えを説く啓蒙的な要素が含まれる仏教説話集で、話の内容・展開が容易につかめるようになっていいる。この単元で扱う「歌故に命を失ふ事」には、「長能(ながよし)」にまつわる章段と「天徳の歌合(うたあはせ)」にまつわる章段の2段がある。これらは、和歌に執着して命を落とした藤原長能(ふじわらのながよし)と壬生忠見(みぶのただみ)の、平安歌人としての生き方について考えを深めることができる文章である。

なお、「長能」にまつわる章段は文章が短く、詳しい状況が分かりづらいため、同じ出来事について記した長文が収められている『俊頼髓脳』も併せて読み進める。

高等学校国語科教科用図書で「天徳の歌合」の章段が掲載されているのは、数研出版「古典B 古文編」(古B314) pp. 14-15及び第一学習社「高等学校 古典B 古文編」(古B322) pp. 126-127の2冊である。

### (4) 単元構想表(表7)

全4時間の単元で、「平安歌人の生き方について、現代の視点で話し合う。」という言語活動を設定した。

前半の第1, 2時は、本文の内容をとらえる時間と位置づけている。まず、『沙石集』と『俊頼髓脳』の藤原長能にまつわる記述を読み、長能の歌人としての生き方について考える。次に、『沙石集』の「天徳

の歌合」を読み、歌合で詠まれた和歌を鑑賞するとともに、壬生忠見の歌人としての生き方について考える。それを受けて、後半の第3, 4時において、平安歌人の生き方について、現代の自分や社会の視点からの検討も含めつつ、話し合う活動を通して自分の考えを深めていく。「平安歌人の生き方」を探るために文章を読み進めていくという考え方である。

「古典B」は、古典を読む能力を養うことを目標としている科目ではあるが、限られた時間数の中では、瑣末な部分の文法的事項や全文の現代語訳について逐一講義をしていると時間が足りなくなる。そこで、授業では、「平安歌人の生き方」という視点から、章段の終わりの部分に記されている筆者の考えや和歌を重点的に扱う。そうすることで、生徒は、平安歌人の生き方を探るために読むことを意識し、見通しを持って学習に取り組むことができるようになると考えられる。なお、重点的に扱わない部分については、現代語訳を活用することも視野に入れた指導を想定している。

時間に余裕がある等があれば、参考として、「天徳の歌合」に関する記録文を読む時間を設けることも考えられる。(原文は漢文であるが、書き下し文に直して生徒に提示する。表7の単元構想表には計画に入っていない。)

なお、表7では、「知識・技能」に関する指導は第1~4時にて行うように記入されている。表全体を見たときに、「読むこと」にも第1~4時の記載が存在し、重複している表記になっているが、もともと〔伝国〕が3領域の指導の中で行うことになっていることを考えると、授業展開で矛盾は生じない。

## 5 終わりに

単元構想表を用いて単元構想例を作成する中で、筆者は、学習指導要領の指導事項の文言や解説の記載内容に立ち返り、指導事項に沿って、生徒にどのような言語活動を、どのような学習の過程を経て取り組めばよいかを整理できることを実感した。

講義中心の授業を改善するにあたり、言語活動を取り入れた単元構想の方法を意識して継続的に取り組むことは有効であると考え

その際、言語活動を行うことが目的とならないように留意し、言語活動によって付けたい力を明確にして授業づくりに取り組むことを忘れてはいけない。

#### <注釈>

- 注1 富山(2011)は、中学校第1学年「B書くこと」のエ「書いた文章を読み返し、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章にすること。」の指導を例に、次のように述べている。「実際に文章を書く過程に推敲する場面を位置付けて指導することが必要である。なぜなら、文章の推敲の仕方は目的や相手によって異なるからである。語句の用法を確かめると言っても、『職場訪問のお礼の手紙』と『小学生に向けた文化祭の案内状』とでは、注意しなければならない語句は変わってくるということである。」
- 注2 和歌山県教育センター学びの丘では、平成23、24年度の「中学校国語科教育研修講座」において、受講者は富山調査官からこの単元構想についての講義を受け、その内容を踏まえて「単元構想表」を用いた授業構想を行い、所属校で授業を行った。それを受けて、平成25年度に開講した「中学校・高等学校国語科教育研修講座」では、この単元構想を高等学校国語科にも広げ、高等学校教員の受講者は、「国語総合」の単元構想表を用いて授業を構想する演習を実施した。
- 注3 「学習の過程」について、『小学校学習指導要領解説国語編』(2008)及び『中学校学習指導要領解説国語編』(2008)では「学習過程」と称している。
- 注4 文部科学省『言語活動の充実に関する指導事例集～思考力・判断力・表現力等の育成に向けて～【高等学校版】』(2012)の国語-9(現代文A)「海外で翻訳出版された小説について発表する事例」は、「関心・意欲・態度」と「知識・理解」の2つの評価の観点を設定した単元例である。
- 注5 この単元は、独立行政法人 教育研修センター「～各教科等における言語活動の充実に向けた指導者養成～平成24年度 国語力向上指導者養成研修(西部ブロック)」第2日のコース別演習【各教科等での学習指導計画作成コース】にて検討した単元計画を基に作成したものである。

#### <引用文献>

- ※1 鳴島甫・高木展郎編著『高等学校新学習指導要領の展開 国語科編』明治図書p.22(2010)
- ※2 富山哲也編著『〈単元構想表〉でつくる!中学校新国語科授業START BOOK 第1学年』明治図書 p.11(2011)
- ※3, ※4 同上書, p.12
- ※5 同上書, p.13
- ※6 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 国語編』pp.116-123(2010)
- ※7 国立教育政策研究所『評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料【高等学校国語】』p.23(2012)
- ※8 文部科学省, 前掲書, pp.124-131
- ※9 国立教育政策研究所, 前掲書, p.40

#### <参考文献>

- ・萩谷朴・谷山茂校注『日本古典文学大系74 歌合集』岩波書店(1965)
- ・文部省『高等学校学習指導要領解説国語編』(1999)
- ・小島孝之校注・訳『新編日本古典文学全集52 沙石集』小学館(2001)
- ・橋本不美男・有吉保・藤平春男校注・訳『新編日本古典文学全集87 歌論集』小学館(2002)
- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』(2008)
- ・文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編』(2008)
- ・富山哲也・三浦登志一編著『〈単元構想表〉でつくる!中学校新国語科授業START BOOK 第2学年』明治図書(2011)
- ・富山哲也・杉本直美編著『〈単元構想表〉でつくる!中学校新国語科授業START BOOK 第3学年』明治図書(2011)
- ・西辻正副編著『国語の授業を変える1 評価規準をどう創るか 中・高等学校編』明治図書(2011)
- ・国立教育政策研究所『評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校国語】』(2011)
- ・西辻正副編著『国語の授業を変える2 評価規準をどう生かすか 高校 国語総合編』明治図書(2012)
- ・文部科学省『言語活動の充実に関する指導事例集～思考力・判断力・表現力等の育成に向けて～【高等学校版】』(2012)
- ・西辻正副編著『国語の授業を変える3 評価規準をどう生かすか 高校 選択科目編』明治図書(2013)